

# 2026年度(総合型選抜)AO選抜入学試験

## 政策科学部「政策科学部セミナー方式」

### 1. 実施状況

#### (1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
政策科学科・政策科学専攻	53	19	10

#### (2) 本入学試験の目的

政策科学部では、アドミッション・ポリシーに基づき、入学時点において以下の学力、関心を有することを求めます。

- (1) 高等学校などの教育によって修得した基礎的な学力を有していること。
- (2) それらの知識に基づく問題解決のための思考や態度、能力習得に関心があること。
- (3) 広く社会的な課題の解決に向けた実践や構想に意欲があること。

上記のアドミッション・ポリシーに基づき、政策科学部の入学試験「政策科学セミナー方式」は、現代において解決が迫られている様々な政策課題に独自の関心を持ち、「政策実践力」と「政策構想力」を身につけるための基礎能力（理解力、表現力、論理性、独創性）に優れている人材を、広く全国から受け入れることを目的としています。

### 2. 試験内容

#### (1) 第1次選考

政策科学部の「政策科学セミナー方式」の第1次選考は、書類選考および「政策科学セミナーⅠ」での講義に関するレポートを作成するというものでした。講義に関するレポートは、政策科学部教員が50分程度の講義を行い、20分程度の質問時間を経て、その後講義内容に関する理解度や意見などを60分でまとめるという内容でした。

2026年度 AO 選抜のセミナーテーマは、「移民政策」でした。講義に関するレポートでは、本講義に関わる6つの問題を出題しました。

#### (2) 第2次選考

第2次選考は、10分程度の個人面接および「政策科学セミナーⅡ」としてグループ・ディスカッションを行いました。グループ・ディスカッションは「日本はどの程度移民を受け入れるべきか」をテーマとして、政策科学部教員の司会により、第2次選考受験者からなるグループ単位で60分程度行いました。

### 3. 出題の意図

#### (1) 第1次選考

書類選考は、政策科学部を志望する理由や入学後に学びたいことなどを記すエントリーシートをもとに、学部への適性を見ることを目的としました。講義に関するレポートでは、講義内容の理解度はどの程度か、自分の考えを文章として表現できているかどうか、英語力や統計資料を読み解く数的処理能力はどの程度かを見ることを意図しました。

#### (2) 第2次選考

個人面接はエントリーシートをもとに行い、志望動機や政策科学部への適性を質疑応答により評価することを意図しました。グループ・ディスカッションでは、第1次選考で説明された内容や論点を整理しながら自分の意見を論理的に説明できるか、論点の解決策を説得的に表現でき

ているか、他者の意見を理解してそれらを踏まえながら議論を建設的に進めることができるかどうかを問うことを意図しました。

#### 4. 評価のポイント

##### (1) 第1次選考

書類選考ではエントリーシートから大学入学後の学習意欲や関心などを測り、政策科学部への適性を評価しました。講義に関するレポートでは設問の解答状況から、講義内容に対する理解度、論理性、文章表現力、英語力、数的処理能力などを評価しました。

##### (2) 第2次選考

個人面接では政策科学部への志望動機や学びの関心度などについて、質疑応答にもとづいて評価しました。グループ・ディスカッションでは、第1次選考での講義内容や資料を踏まえた発言ができているか、独り善がりではなく他の人の発言内容も踏まえつつ発言ができているか、議論の目的や流れを意識した発言ができているかなどを評価しました。

#### 5. 解答状況

##### (1) 第1次選考

エントリーシートでは大学入学後に何をどのように学びたいのか、また、それらを将来にどのように活かしたいのかといった点についての記述を求めています。大半の志願者は政策科学部の教学内容と結びつけて書けていました。

講義に関するレポートには6つの大問があり、問1は講義の内容と関連する英語の文章の読解力を問うもの、問2と問3はそれぞれ、講師の説明を適切に理解した上で「開放的国境政策論」および「裁量的国境政策論」の主張として最も適切な文章を選択するもの、問4は講義内容全体に関して適切な文章を全て選択するもの、問5は提示された表内の数値についての計算を求めることで数的処理能力を問うもの、問6は「開放的国境政策論」および「裁量的国境政策論」の主張を踏まえて、今後、日本がどのように移民を受け入れていくべきかについての意見を述べるもの、でした。合格者はおおむね講義内容の理解度が良好で、論理的な文章表現ができていました。

##### (2) 第2次選考

個人面接は政策科学部への志望動機や入学後に学びたいことなどについて、受験生の多くが具体的かつ論理的に表現できており、的確な応答がなされていました。

グループ・ディスカッションは受験生を3つのグループに分けて行いました。ほとんどの受験生が所定時間内で自分の意見を積極的に表明できていましたが、論理的に説明できているか、他人の意見を踏まえながら議論を建設的に進めることができているかなどの点において、評価にやや差が出ました。

#### 6. 次年度の受験生へのアドバイス

他者の話の内容や資料などが意味することを、できるだけ客観的かつ正確に理解できる力を持つよう努めてください。また、多角的視野から批判的に検討し、そこから自分の考えを論理的かつ建設的に積み上げていく力を身につけるよう、さらにはそれを適切な言葉で表現できるよう、日頃から心がけてください。

グループ活動を行う機会があれば、他者の意見をよく聞き、それに対して説得力をもって自分の意見を述べる力や、そこから議論を展開して新たな解決策や見方を示す力を養ってください。

政策科学は文理融合の学際的な学問です。そうした政策科学の学びの特徴をよく理解し、旺盛な好奇心と高い意欲を持って、広範な知識を習得することも心がけてください。

以上